

令和4年度

撫養小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①自ら考え、判断し、創造できるたくましい子どもの育成
- ②言語活動を充実させた教育活動の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
	校長(総括)・教頭(総務)・教務主任・研修主任・各学年主任・特別支援教育コーディネーター

校長

【各校の取組状況の把握について】

研究授業や、管理職による日々の授業参観、子どもへのアンケート結果の分析等、さまざまな機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○漢字・計算等については、ほとんどの児童が学年相当の習得ができています。 ●習得した知識や技能の定着が十分でない児童が少なからずおり、その差は学年が上がるにつれて大きくなっている。	・課題に意欲をもって取り組み、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けることができる。 ・学校評価アンケートで「漢字や計算の力がついてきている」と回答する児童の割合が90%以上になるようにする。	①朝の学習(チャレンジタイム)や授業の中で、漢字・計算のミニテスト・チェックを実施する。 ②職員室にプリントボックスを設置し、有効なプリントを引き継いで使うことのできるようにする。 ③自分の目標を具体的にあげ、レベル別の課題プリント等を行い、個々の定着を図る。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いや考えを伝えようとする児童が増えてきている。 ●自分の思いや考えを、筋道を立てて話したり、文章で表現したりすることに課題があり、個人差も大きい。	・目的に応じて、根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えを豊かに表現することができる。 ・自主学習に進んで取り組む児童の割合を10～15%以上増やす。 ・授業中、自分の意見や考えたことを発表している児童の割合が75%以上になるようにする。	①考えをまとめるために、ペア学習やグループ活動、ホワイトボードやタブレットを活用した交流活動を、授業の中で意図的に活用する。 ②発問では「なぜ」「どうして」を大切にすること。 ③日記(テーマ有)や自主学習等の記述式の宿題を出す。また優れた自主学習ノートを定期的に紹介する。 ④思いや考えを伝えるときの言葉の例を示す。 ⑤話し方の型を表示し、基本的な伝え方を定着させる。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業での活動や問題解決に、真面目に取り組む。 ●自ら活動テーマや問題を見いだしたり、取り組み方を考えたり、工夫して試してみたりする積極性が見えづらい。	・学んだことを生かしながら自らの考えをもち、相手の意見を自分に取り入れながら学び合うことができる。 ・学校評価アンケートで「テストで思い通りの点数がとれている」児童の割合が75%以上になるようにする。	①ワークシートやノートにおける子どもの振り返りを大切に、子どもの意識の流れにそった学習のめあてを設定する。 ②「徳島型メンター制度」の導入、「学びあいウィーク」の実施等により、教職員同士の学び合いによる授業改善を図る。 ③授業実践の視点や方策などに焦点を当てた指導の研修も計画的に行う。			

令和4年度 学力向上ロードマップ

